

問1 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた
2. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した
3. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった
4. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された

問2 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。（2026年 滋賀公立入試 類似）

1. 青銅器
2. 鉄器
3. 埴輪
4. 磨製石器

問3 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。（2022年 愛媛公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。
2. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。
3. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
4. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。

問4 3世紀の中国の歴史書『魏志』倭人伝において、女王卑弥呼が統治していたとされる、当時の日本列島の呼称として適切なものはどれですか。（2017年 長崎県公立入試 類似）

1. 倭国
2. 邪馬台国
3. 日本
4. 高天原

問5 弥生時代に大陸から伝来した金属器に関する統計資料において、武器や工具として実用的に使われたものとは別に、主に祭祀や儀式の道具として分類される金属器があります。銅鐸や銅鏡などが代表例である、この金属器の名称として適切なものを選びなさい。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 青銅器
2. 鉄器
3. 打製石器
4. 須恵器

問6 弥生時代の社会や文化について述べた次の文のうち、近畿地方を中心に分布する青銅器である「銅鐸」の特徴や背景を説明したものとして最も適切なものはどれか。（2020年 大分県公立入試 類似）

1. 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。
2. 死者を埋葬する際に副葬品として納められた装飾品で、魔除けなどの意味を持っていた。
3. 古墳の墳丘に並べられた焼き物であり、葬られた王の権威を示したり聖域を区切ったりする役割があった。
4. 実用的な武器として使われたのち、次第に祭祀用へと変化したもので、九州地方北部で多く出土する。

問7 弥生時代の大規模な集落に見られる「環濠集落」について、集落の周囲に深い壕や柵を設けた当時の社会的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬公立入試 類似）

1. 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため
2. 仏教が伝来したことで、寺院を中心とした聖なる空間を俗世間から区別するため
3. 大陸から伝わった最新の建築技術を誇示し、周辺の豪族に対して政治的優位を示すため
4. 大規模な洪水や高潮などの自然災害から、住居や高床倉庫が流されるのを防ぐため

問8 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。（2018年 大阪公立入試 類似）

1. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。
2. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。
3. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。
4. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量の鉄が実用的な道具として好まれたから。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問2	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問3	答え 1 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐる集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問4	答え 1 倭国	中国の歴史書では、当時の日本列島やそこに住む人々を「倭」と呼び、その国々を指して「倭国」と表現しました。卑弥呼が都を置いた具体的な場所は「邪馬台国」と記されていますが、日本列島の勢力を総称する当時の呼び名としては「倭国」が用いられています。
問5	答え 1 青銅器	弥生時代には、鉄器とほぼ同時期に大陸から青銅器が伝わりました。鉄器がその硬さを活かして武器や農具、工具として実用的に使われたのに対し、青銅器は磨くと光り輝く性質などから、豊作を祈る祭り（祭祀）や村の重要な儀式に用いられる特別な道具として重宝されました。
問6	答え 1 稲作の豊作を願う祭りの道具として使われ、表面には当時の人々の生活の様子が描かれることもあった。	銅鐸は、弥生時代の人々にとって極めて重要であった稲作の祭礼に深く関わっています。表面に描かれた鹿を狩る様子や、高床倉庫、脱穀する人々の姿などの絵画資料は、文字を持たなかった当時の社会を知るための貴重な手がかりとなっています。なお、九州北部で多く見られるのは銅剣や銅矛であり、銅鐸とは分布域が異なります。
問7	答え 1 稲作が普及して蓄えられた食料や土地をめぐる争いが始まり、防御を固める必要があったため	縄文時代にはあまり見られなかった集落同士の争いは、弥生時代に入り稲作による余剰生産物（富）が生まれたことで発生しました。吉野ヶ里遺跡などの調査からは、集落全体を壕や柵で囲むだけでなく、物見櫓を立てて外敵を監視していた様子も判明しており、当時の社会が非常に緊張感のある状態にあったことを示しています。
問8	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。